



ボトルリンサー(PE T容器を洗淨する装置)

南九州コカ・コーラボトリング(株)の関連会社である白州ヘルス飲料(株)熊本工場(熊本市南高江)は、30種類にも及ぶペットボトル製品の専用工場です。年間約750万ケース(1ケース=500ml×24本など)を生産している同工場では、ISO14001の取り組みの中で、毎年さまざまな節水対策を行っています。

03年には、①配管を洗淨する薬品を変え、洗淨時間を短縮②PE T容器の洗淨機械を改善し、水を再利用③冷却水はお茶の抽出液を殺菌するときのみ使用する—などのきめ細やかな工夫を実践し、05年には「肥後の水資源愛護賞」を受賞しています。

昨年は、「PE T容器の洗淨水量の最適化」というテーマを掲げ、さらなる改善活動を実施しました。

「メーカーから納入されるPE T容器は、きれいな状態で入荷しますが、製品液を詰める前にはボトルリンサーという装置で、PE T容器内部をいま一度洗淨。この洗淨水に着目し、改善活動を1年間続けてきました」と末永俊昭工場長。

この装置でPE T容器を洗淨するために、年間で3万2,000トンの地下水が必要でしたが、内部の洗淨性を損なわず、かつ使用水量を最小限にするため、水噴射ノズルの改造、噴射圧力の設定変更など、さまざまな洗淨の効果テストを繰り返してきました。

その結果、洗淨効果を以前より高めながら、18.8%の節水に成功し、年間6,000トンの大幅な水削減につなげることができました。

本年度も、「冷却状態にある製品を常温にもどす装置の節水対策を検討しています」とのことです、さらなる水使用量削減に向けた改善活動を展開しています。

白州ヘルス飲料(株)熊本工場の主な取り組み

- 配管洗淨時の薬品を変え、洗淨時間を短縮
- PE T容器の洗淨機械を改善し、水を再利用
- 冷却水はお茶の抽出液を殺菌するときのみ使用
- PE T容器内部の洗淨性を損なわず、使用水量を最小限にするため、水噴射ノズルの改造、噴射圧力の設定を変更
- ウォーマー(常温にもどす装置)で使用する水の節水対策を検討中



ウォーマー(冷却状態にある製品を常温にもどす装置)

水使用量の削減に全力
更なる改善活動も次々

お風呂の残り湯で“足踏み洗濯、
できることから楽しくチャレンジ



小さめのたらいで行う“足踏み洗濯”。風呂の残り湯を有効活用できるだけでなく、汚れ落ちのよさや環境への配慮も期待できる



水回りなど目に付きやすい所に節水ステッカーを張り、家族みんなに節水の意識を徹底

ご主人と子ども2人(4歳と1歳)の4人家族の主婦、小原光江さん(34)=熊本市若葉=が本格的に節水活動をスタートしたのは今年2月末ごろ。以前から「環境に配慮した生活をしなければ」と考えていたという小原さんですが、市節水推進パートナーシップ会議委員を務める林和美さんとの出会いが、小原さんの背中を押す大きなきっかけになったそうです。

小原さんは、林さんの助言で、まず残り湯を洗濯に再利用することにトライ。洗濯と言っても洗濯機を使うのではなく、小さめのたらい(林さん提供)を使った“足踏み洗い”。衣類を置いた洗面器に浴槽からくみ上げた少量のお湯と洗濯用の粉せっけんを投入し、汚れが落ちるまでひたすら足踏みします。「節水に貢献できるのはもちろんですが、今まで落とすのに苦労していた、主人の作業着の染みや子ども服の泥汚れなどが、とにかくよく落ちるんですよ」と小原さん。「すすぎには洗濯機を使いますが、足踏み洗濯だと粉せっけんの使用量が少なくて済むので、余計な水を使いません。環境にも優しいです」と二重三重の相乗効果を喜びます。さらに「日ごろのストレスや運動不足の解消にもなります(笑)」

小原さんはこのほか、トイレタンクに、水を流す際の水量を抑える節水おもり(林さん提供)を装着、食器洗いは洗いおけにためた水で行う、入浴や歯磨きの際、水を出しっ放しにしない意識を家族に徹底—などを実践。これらの行動が早くも実を結び、開始後1カ月目から、月当たり従来比約1000円の水道料節約を継続中。小原さんは「家計にも大助かりです」と目を細めます。

「節水は、負担に感じない程度に楽しみながら取り組むのがポイント。ちょっとした心遣いが節水につながります」とアドバイスする小原さん。子どもが水遊びする際の水節約や、残り湯のさらなる有効利用など、効果的な節水へ、次なる目標が頭を駆け巡っています。

小原光江さんの主な取り組み

- 風呂の残り湯を再利用し、足踏み洗濯、を実践
- トイレタンク内に節水おもりを装着し、水を流す際の水量を抑える
- 食器洗いは洗いおけにためた水を使って行う
- 室内の水回りなどに節水ステッカーを張り付け
- 入浴や歯磨きなどの際、水を出しっ放しにしない意識を家族で徹底



「日常のちょっとした心遣いが節水につながる」と話す小原光江さん



「わが家・我が社では、このような節水に取り組んでいます」という情報を、事務局までお知らせください。会報誌等でご紹介させていただきます。